

考 察

全体的に A、B の肯定的な回答が多かったが、中には今後検討していかなければならない課題も見受けられる。

①「めあて」や「まとめ」、「ふりかえり」を大切にした授業」に関わって…

昨年度の保護者アンケートの「C (27.7%)」「D (2.4%)」の割合が減少している。また、児童アンケートを見ても「A」「B」の割合が 95%を超えている。本校の職員が意識して取り組んできたことの成果が現れ、それを評価していただいていると考える。

本校では教え込む授業ではなく、主体的に取り組む授業を目指している。何を学習するのかノートに記述することでそれを意識化させ、学習の最後に「まとめ」「ふりかえり」といったことを記述することで学習の内容、流れを定着させたいと考えている。基礎基本の定着はもちろん必要だが、それを土台に児童自らがねらいを明確にもち、課題解決に向けて取り組めるような授業を仕組み、その上で学びを整理したり、表現したりするなどして振り返りを充実させていきたい。

②「家庭学習（宿題・自主学習）」③「コンピュータの活用」に関わって…

家庭学習に関しては、児童のアンケート結果は「A」「B」の割合が 90%近くになっているが、保護者アンケートでは昨年度の「C (9.6%)」「D (1.2%)」よりやや高いポイントになっている。この点は反省すべき点だと考える。

本校では学年の発達段階に合わせて自主学習を推奨している。今後も、学習は人のためではなく自分が成長するための必要な手立てだと意識できるような指導を心がけたい。

コンピュータの使い方については、保護者も児童もコンピュータ使用の意義を考え学習に使っているという結果が出ている。実際、コンピュータを活用し、いろいろなものを調べたり、意見を出し合ったり、自分が見つけたものを撮影し友だちに紹介したり、ドリル学習をしたりと有効に活用している。

コンピュータの使用については、ゲームのやりすぎ、SNS に関わったトラブル等、いろいろな危険もはらんでいる。しかし、これからの社会の中で、コンピュータが使えるのと使えないとでは生き方に大きな差が出てくるだろう。問題が生じたとき、「使ってはいけない」と否定するのではなく、コンピュータの便利さ・可能性を指導すると同時に、使う児童側にも責任があるという指導が必要である。市から貸与されているコンピュータは、何を閲覧したか履歴を確認することができる。児童が自分のコンピュータをいたずらに使用すると、便利であるはずのコンピュータの貸与の目的が大きく異なってしまうことを意識できるような指導をしていきたい。

④「読書」⑤「運動」に関わって…

「読書」「運動」にも小さい頃から親しむことが大切だが、昨年度から「読書に親しむ」のポイントが低い。活字離れが大きな問題となっている今日、本校も例外ではない。本校では「読みきかせ活動」「読書週間」を行っているが、それと同時に、大人がどれだけ本

に親しんでいるかを子ども達に伝えていくことも大切かもしれない。学校でも本に親しむ環境作りをさらに盛り上げていくとともに、ご家庭でも、家族で読書に親しむといった機会作りを心がけていただきたい。

「運動」に関しては、全校で運動する計画を立ててきたが、猛暑による熱中症の危険、季節外れのインフルエンザなどにより、思うような活動をする事ができない時期があった。しかし、運動会で見ていただいたように、リズムカルに元気よく運動に親しめる子が多い。休み時間には校庭でサッカー、ドッジボール、鬼ごっこと元気に遊んでいる姿も多く見られる。小学生の時期は運動神経が発達するゴールデンエイジといわれている。今後も様々な動きを取り入れながら運動の楽しさを味わわせていきたい。

⑥「あいさつ」に関わって…

児童アンケートの「A」「B」を合わせると 90%を超える。実際、廊下で歩いている児童がお客さんや職員にあいさつしている場面をよく見る。保護者アンケートでも昨年度「A 19.3%」から今年度「A 30.4%」と高い数値上がっている。しかし、依然として、保護者から「旗振りの方へのあいさつが少ない」という声も聞かれる。旗振りの方、地域の安全パトロールの方など自分たちのために活動していただいている方々には積極的にあいさつできるよう指導していきたい。ご家庭でもあいさつすることの大切さを確認し、わが子があいさつを進んでしているかについて話し合っただけだと幸いである。

⑦⑧「友達関係」に関わって…

これも保護者・児童ともに「A」「B」を合わせたポイントが 90%を超えている。いい傾向だといえる。しかし、悪い言葉遣い、強い口調で文句を言う、下校中に友だちにいたずらをするといったことは依然として聞かれる。今後も定期的な「いじめアンケート」を実施するとともに、児童との積極的な交流、児童の行動・表情などの観察といったことを通し、児童の不安を察知し、対応できるよう気をつけていきたい。

また、児童が担任のみならず養護教諭、学習指導員など誰にでも安心して相談できる相談コーナー、担任以外からも声をかけるといった環境作りも行っていきたい。

⑨「基本的生活習慣」⑩「保健・生活」に関わって…

この2つの項目はいずれも「A」「B」を合わせた数値が 85%を超えている。これは本校の家庭力がいかに高いかを示している。「基本的生活習慣」に関しては、日々の積み重ねが大切であり、保護者がそのことを意識されていることが児童の健全で着実な成長につながっていると考えらる。

「保健・生活」に関わっては、今年度も熱中症や季節外れのインフルエンザといったことに対し心配する日々が続いたが、保護者のご理解もあり、体調不良の時は無理をさせず家庭で様子を見る、発熱した時は迎えにきていただくといったご協力もあり、感染症が複数学級に広がるといったこともなかった。

⑩「スマホ・ゲームのルール」に関わって…

この項目は保護者と児童のポイントに差が出ている。保護者が「A」が20～15%、「A」「B」を合わせて73.6%だが、児童は「A」が68.9～57.3%、「A」「B」を合わせると90%を超えている。保護者の期待感の高さと児童の意識とのギャップが考えられる。大切なことは、ルールを押しつけるのではなく、ルールを守ることが自分たちの生活を守ることにつながるという共通理解を親子で図ることだと考える。保健指導も含め、自分自身を律していけるような児童の育成を心がけていきたい。

⑫「防災」に関わって…

この項目に関しては、昨年度保護者の「A(3.6%)」「B(33.7%)」と比較するとポイントは上がっているが、児童の「A」「B」を合わせて90%、特に低学年では「A」だけで80%を超えるものと比較すると、やはり大きな差がある。学校では、避難訓練等を通し、教師に引率されて避難するだけではなく、「自分の命は自分で守る」といったことを指導している。休み時間に、教師がいないときにどのような行動をとったらよいかも指導しているが、何も起きていない日常の中で、「天災はいつ起こるかわからない」といった意識も薄れているかもしれない。また、児童が防災について「わかっている」と安易に考えている可能性もある。しかし、山梨県は富士山の噴火、南海トラフ地震といった災害がいつ起こっても不思議ではないといわれている。定期的にご家庭の中でも、登下校中の避難の仕方・避難場所といったことも含め、災害対策を確認しておいていただきたい。

⑬「教員」に関わって…

低学年は「A」「B」合わせて90%以上が気軽に相談できると感じているが、中学年、高学年になると「C」「D」合わせて20%を超えている。保護者の回答でも「C」「D」合わせて30%を超えていることを重く受け止めたい。

教師も児童のことを考え一生懸命取り組んでいる一方、子ども達が納得できる指導であるかということも再確認する必要がある。児童が安心して相談できるよう、窓口を担当だけでなく、学年の職員、養護教諭、教務もあるのだということを引き続き伝え、いろいろな目で児童の立場に立って対応していく必要がある。同時に、保護者の方からも気軽に学校に相談していただけるよう呼びかけていきたい。

⑭「学校情報」に関わって…

これも「A」「B」を合わせて90%を超えている。本年度から紙ベースではなくデータを配信するという形をとらせていただいている。「おたよりが確実に届く」「なくさない」「いつでも確認できる」といった好評価の反面、「予定表や献立など見づらい」といったご意見も伺っている。学校からの連絡をわかりやすくする、学校での出来事・児童の様子をできるだけ伝え、学校のことを知っていただくということは、学校と家庭が共通理解を図っていく上で必要なことであることをしっかり受け止め、対応していきたい。